



— 2026年6月期 第2四半期 決算説明資料

ICTの活用で「持続可能な医療」を目指す
SUStainable **MED**icine

- 自社内で構築してきたデジタル医療プラットフォームを活用した「治療用アプリ開発」「臨床試験支援」を軸に、新たな領域への展開を計画

《治療用アプリ開発：単独／共同》

アプリ開発

臨床試験（探索的・検証的）

承認申請

市販後・RWD

デジタル医療プラットフォーム

① QDTx®
(治療用アプリ開発プラットフォーム)



② SUSMED SourceDataSync®
(臨床試験システム)

試験データ入力・管理システム



医療機関



製薬企業・CRO*

* CRO: 医薬品開発業務受託機関

ブロックチェーン



③ Awesome Intelligence®
(医療ビッグデータ分析)



《臨床試験支援：DTx／医薬品》

《新たな事業領域》

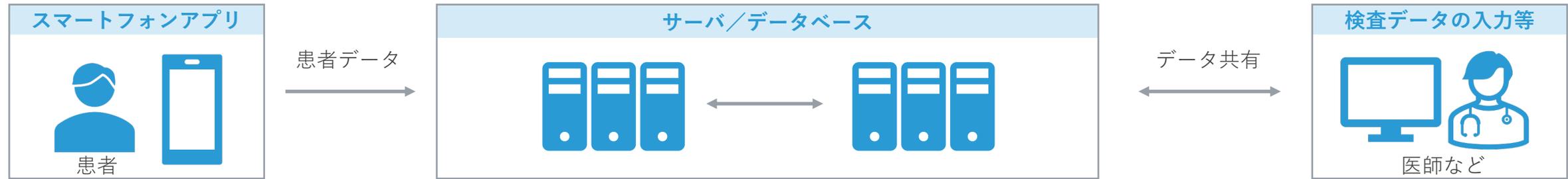
例) レジストリ

- 治療用アプリの開発経験から、新規アプリのPoC*取得を迅速に実施可能なプラットフォームを構築（特許技術実装）
- 医療機関用システムと患者用アプリを設定ファイルでカスタマイズするだけで臨床試験が実施可能
- スクラッチで開発する必要がなく、開発リソースを節約しながら複数パイプラインを並列で推進できる

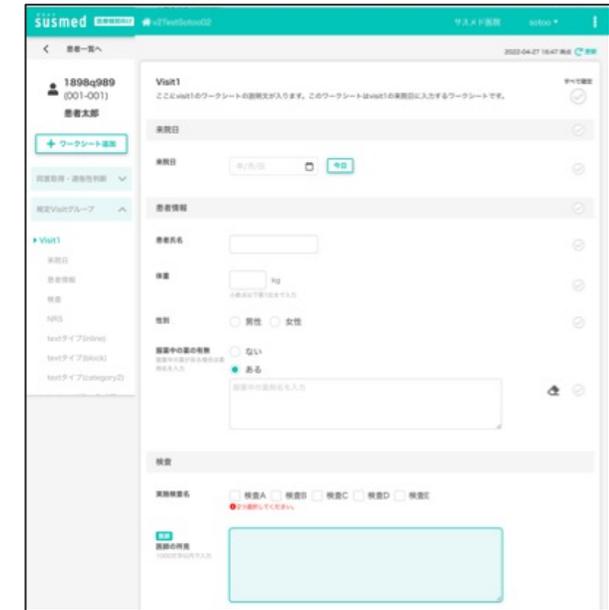
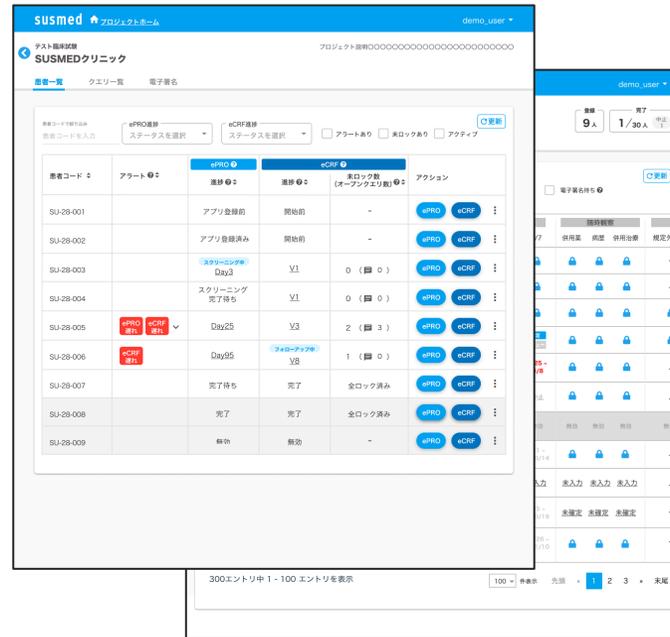
*PoC: Proof of Concept



- ブロックチェーン技術を実装した当社システムにより、臨床試験のモニタリングに関する工数と費用を大幅に削減
- リモートでの臨床試験実施も可能とし、多額の開発コストに起因するドラッグ・ラグ、ドラッグ・ロス の解消を目指す



- データ保護
- セキュリティ



* CRO : 医薬品開発業務受託機関

— 治療用アプリの提供の流れ

- 治療用アプリは、医師の診断・処方に基づき、患者のスマートフォンにダウンロードされる
- 医療機関で処方されるアカウント情報を使用してアプリにログイン
(Google PlayやApp Storeからダウンロードは可能だが、アカウント情報がないとログインできない)
- ログイン後に実際の治療行為をアプリ単独で実施 (医師の介在は不要)



ヘルスケアアプリと治療用アプリの違い

- 治療用アプリは「治療」を行うものであるため、医学的エビデンスに基づく厚生労働省の承認が必要
- 医療機器として認められ保険収載されることで、医療保険による一部費用負担が実現

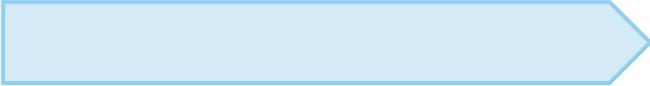
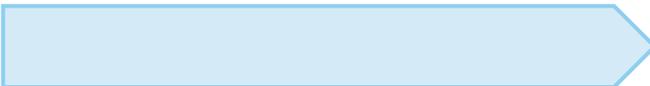


医学的エビデンス	なし、または脆弱	治験で医学的エビデンスを取得 販売するには厚生労働省による承認が必要
ユーザー	健常者・有症状者 誰でもいつでも利用開始可能	医師が診断し、処方を受けた患者のみに利用 権限あり
マーケティング	消費者1人1人を対象にした広告が必要	医師が処方を行うため、医師へのマーケティ ングのみ
課金方法	月額使用料や、広告視聴による無償利用	医療機器であり高価で販売 保険適用の場合、国民皆保険にて3割負担

- 治療用アプリ開発のプラットフォームを活用し、複数のパイプラインを組成 (販売を行なっているプロダクトはまだございません)
- アルゴリズム構築と治療用アプリの普及で重要となるアカデミアのKOLとの関係性構築で多数の実績

	対象疾患	研究・アプリ開発	探索的試験	検証的試験	現状
治療	サスメド 不眠障害用アプリ Medcle				製造販売承認事項 一部変更承認を取得し、 保険適用希望書を提出
	SMD401 (乳がん運動療法)				次試験に向けて準備中
	SMD402 (ACP** : Advance Care Planning)				企業治験進行中
	SMD201 (慢性腎臓病)				次試験に向けて準備中
	SMD102 (遷延性悲嘆障害)				アプリ開発中 論文公開
	SMD202 (オピオイド誘発性便秘症)				探索的試験の開始に向けて アプリ開発中
	SMD403 (耳鳴)				次試験に向けて準備中

- 治療用アプリ開発のプラットフォームを活用し、複数のパイプラインを組成（販売を行なっているプロダクトはまだございません）
- アルゴリズム構築と治療用アプリの普及で重要となるアカデミアのKOLとの関係性構築で多数の実績

	対象疾患	研究・アプリ開発	探索的試験	検証的試験	現状
治療	SMD105 (乳がん切除後疼痛症候群)				臨床研究終了 探索的試験に向けて準備中
	SMD106 (月経前症候群・月経前不快気分障害)				臨床研究実施中
	SMD107 (持続性知覚性姿勢誘発めまい)				臨床研究実施中
診断	SMD103 (妊産婦うつ)				アプリ開発中 論文公開
	SMD104 (ADHD：視線解析)				アプリ開発中 AMED事業に採択

1 不眠障害治療用アプリの販売開始

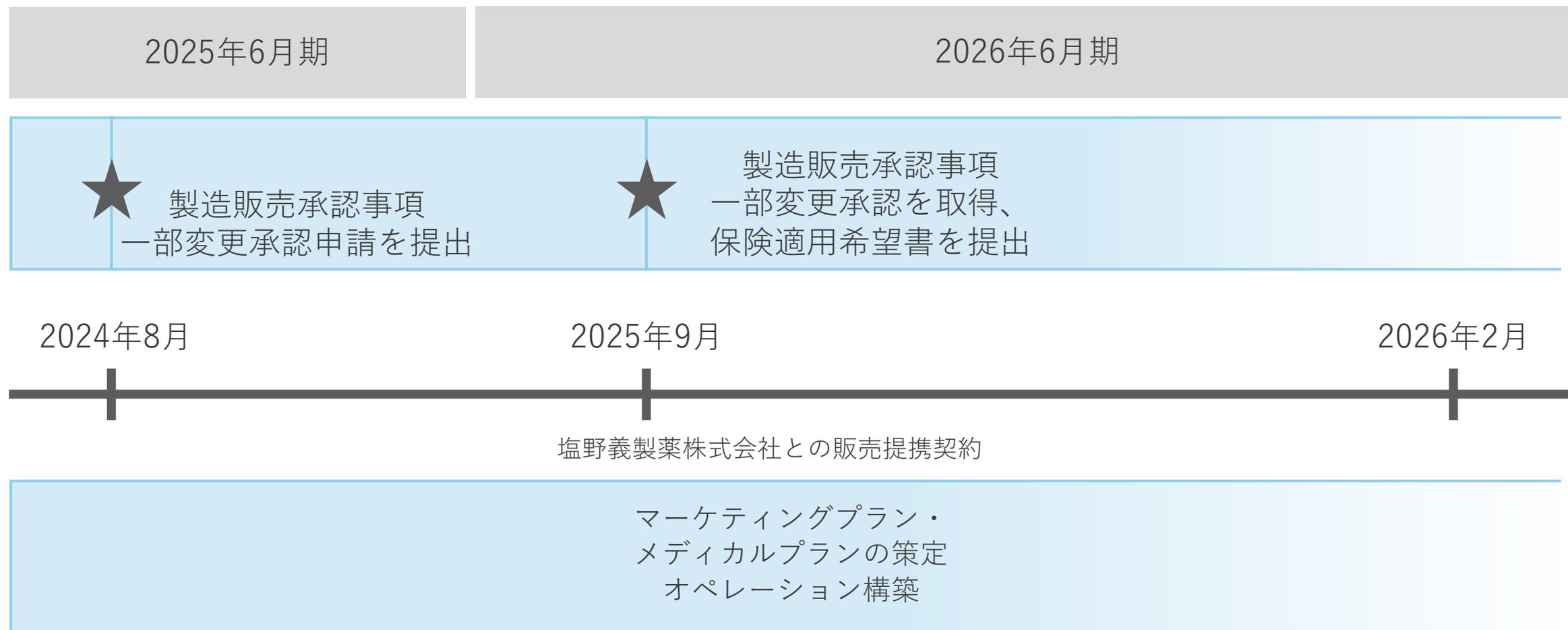
2 パイプラインの開発進捗

- ・ SMD201：次試験の開始
- ・ SMD105：次試験の開始
- ・ SMD403：特定臨床研究結果の公表
- ・ SMD106：特定臨床研究の完了

3 臨床試験システムの稼働実績積み上げ

重点施策① 不眠障害治療用アプリの販売開始

- 製造販売承認事項一部変更承認を取得し、保険適用希望書の提出を完了
- 販売面については、塩野義製薬株式会社と引き続き保険収載後の各種計画を立案中



- SMD403 (耳鳴) において特定臨床研究を完了し、日本聴覚医学会総会・学術講演会で結果を公表

杏林製薬株式会社との耳鳴治療用アプリ開発



各位

2025年10月16日

杏林製薬株式会社
東海大学
サスメド株式会社

耳鳴治療用アプリを用いた特定臨床研究結果に関する学会発表のお知らせ

この度、東海大学医学部付属病院（神奈川県伊勢原市）が実施した、耳鳴治療用アプリケーション「KRP-DT123/SMD403」（以下、本アプリ）を用いた医師主導の特定臨床研究（jRCTs032230359）の

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS82385/49401b1f/1ba4/4e2f/a11c/60e3ebb12a96/140120251015574086.pdf>

- SMD403 (耳鳴) の共同研究開発及び販売に関する契約に関連して覚書を締結

杏林製薬株式会社との耳鳴治療用アプリ開発



< 覚書締結の概要 >

- 学会で発表された特定臨床研究の結果を踏まえ、両社で協議を実施
- 今後の開発及び最終的な上市を見据えて、当社の役割を追加することで合意
- マイルストーン収入及び販売額に応じたロイヤリティーを増額

- 虚血性心疾患及び拡張型心筋症による重症心不全を対象にしたHeartseed社が実施する企業治験への提供を開始
- 再生医療等製品の治験に対する初めてのシステム提供

心筋再生医療(カテーテル投与)の第I/II相企業治験



<ブロックチェーン技術の活用による期待>

- データ入力／照合作業に関わる工程の削減
- モニターの医療機関訪問回数や作業時間の低減
- 治験データ自体の信頼性向上

1 不眠障害治療用アプリの販売開始

一部変更承認を取得し、保険適用希望書を提出

2 パイプラインの開発進捗

- ・ SMD201 :
- ・ SMD105 : SMD403の特定臨床研究結果を学会で発表
- ・ SMD403 :
- ・ SMD106 : 杏林製薬との間でマイルストーン・ロイヤリティを増額

3 臨床試験システムの稼働実績積み上げ

Heartseed社の企業治験へ提供開始

業績ハイライト

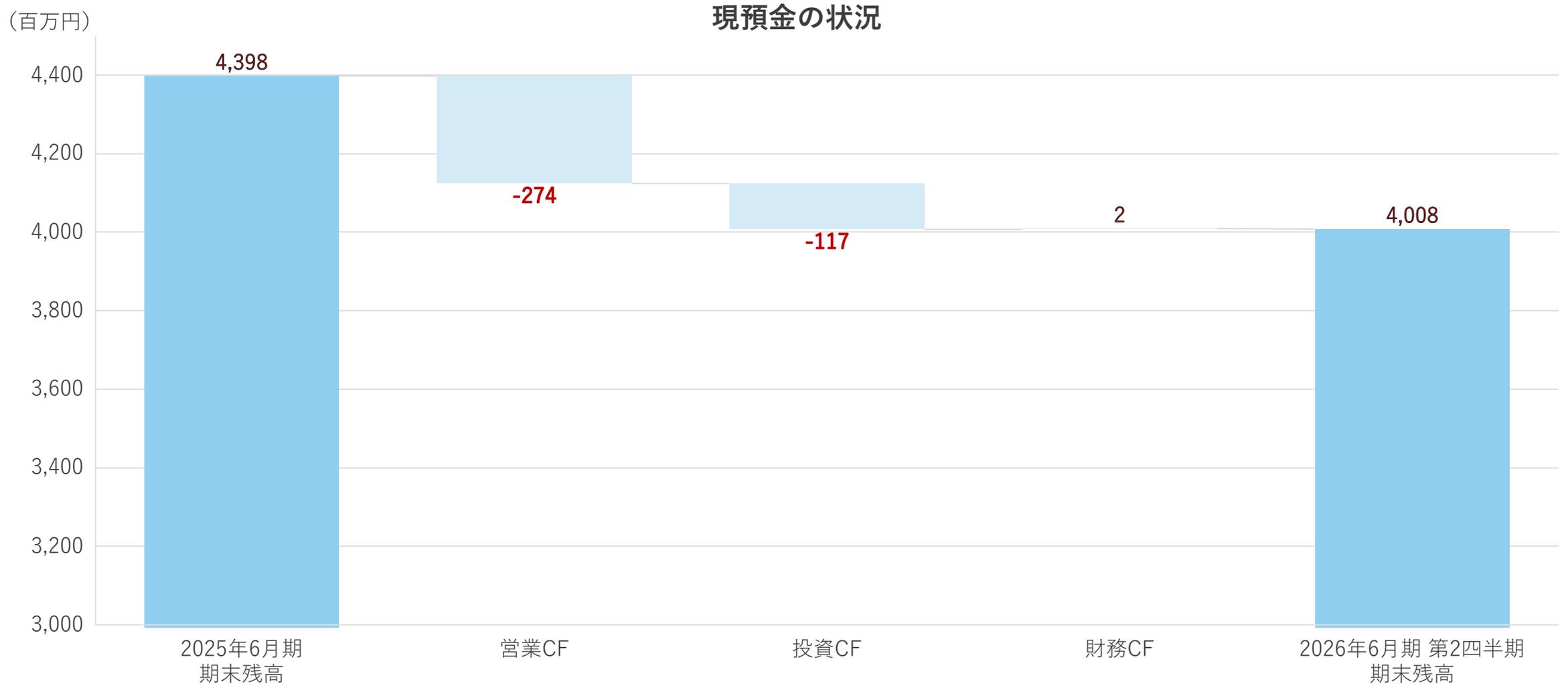
- 事業収益はDTxプラットフォーム事業が安定的に推移したことにより、第2四半期累計で91百万円を記録
- 第1四半期から事業費用の構造に大きな変化はなく、営業損失は286百万円で着地

	(参考) 2025年6月期実績	2026年6月期 第2四半期累計	2026年6月期 通期予算	達成率
事業収益	462百万円	91百万円	--百万円	--%
営業利益	△299百万円	△286百万円	--百万円	--%
開発パイプライン件数 (2026年2月13日現在)	12件	12件	--件	--件
契約案件数	16件	14件	--件	--件
研究開発費	273百万円	112百万円	--百万円	--%

- DTxプロダクト事業は収益の計上がない
- DTxプラットフォーム事業は安定的に収益を獲得。セグメント収益は53百万円を記録し、2025年6月期の実績を超過

	(参考) 2025年6月期	2026年6月期 第1四半期累計	2026年6月期 第2四半期累計
DTxプロダクト事業			
事業収益	300百万円	--百万円	--百万円
セグメント利益	118百万円	△44百万円	△100百万円
DTxプラットフォーム事業			
事業収益	162百万円	45百万円	91百万円
セグメント利益	33百万円	28百万円	53百万円

■引き続き、強固な財務基盤を維持



— Appendix

会社概要

会社名	サスメド株式会社
代表者	代表取締役社長 上野太郎
設立年月	2016年2月 (2015年7月に合同会社として創業)
本社	東京都中央区日本橋本町三丁目7番2号
従業員数	47名 (2026年2月時点)
事業内容	「DTx開発」「医薬品開発の効率化を推進するSUSMED SourceDataSync®の提供」を展開
主要株主	経営陣 日本カストディ銀行 ヘルシア スズケン 第一生命保険 等

At a glance (2026年2月現在)

不眠障害用アプリの製造販売承認事項一部変更承認を取得
保険適用希望書を提出

特許取得数

30件

海外特許・共同出願含む

DTx開発
パイプライン数

12件

プロジェクト採択数
(累計)

21件

AMED* / 厚生労働省 / NEDO** /
文部科学省 / 内閣府 / JST***

共同研究数 (累計)

23社・機関

*AMED: 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
**NEDO: 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
***JST: 国立研究開発法人科学技術振興機構



代表取締役社長 上野 太郎

医師、医学博士

睡眠医療・神経科学分野を中心とした科学業績を多数有し、臨床医として専門外来診療も継続。国立がん研究センター等との共同研究を主導。日本睡眠学会の評議員も務める

東北大学医学部卒(H18年)

受賞歴: 井上研究奨励賞、武田科学振興財団医学系研究奨励、内藤記念科学奨励金・研究助成、肥後医育振興会医学研究奨励賞等
経済産業省ヘルスケアIT研究会専門委員



取締役(管理) 小原 隆幸

船井総合研究所に入社し、プライベートエクイティファンドのビジネスDD業務に従事。その後、大和PIパートナーズ、大和企業投資において、国内外の投資業務に携わる。その後、コスメネクスト社において、経営管理／経営企画の担当役員として、管理体制の整備、旗艦店(@cosme TOKYO)の開発を手掛け、2020年より現職

MBA (London Business School)、USCPA (Inactive)



取締役CTO(システム開発) 本橋 智光

Slerの研究者、Web系企業の分析者を経て現職

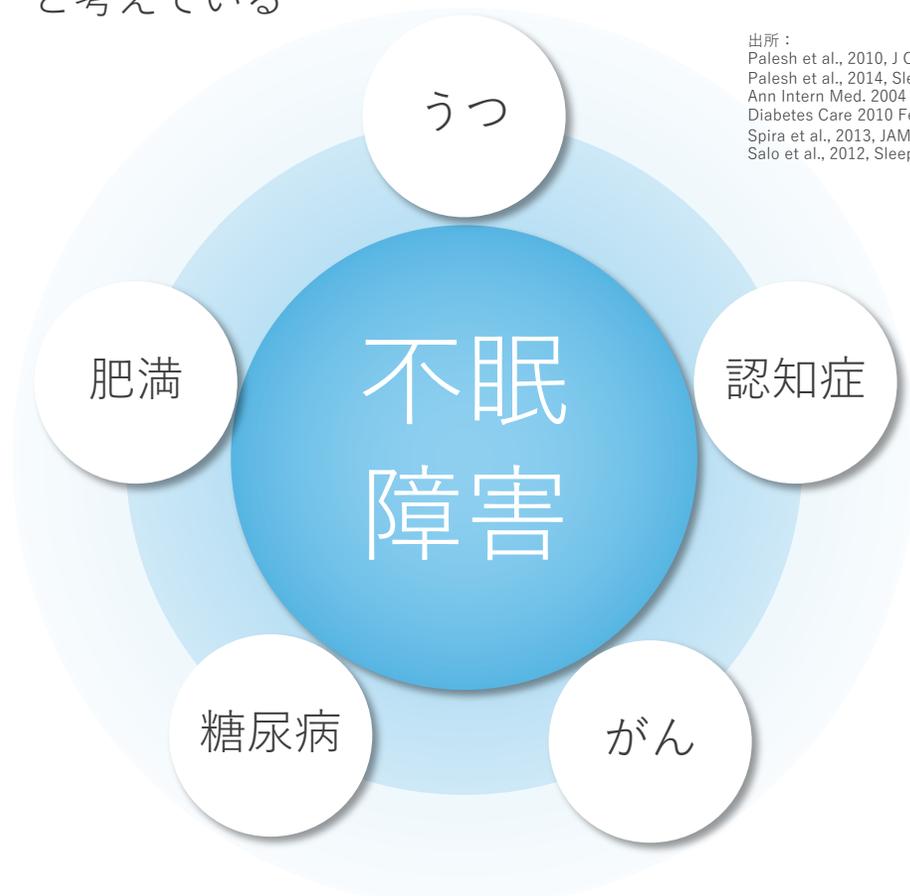
基盤・スマホアプリ・フロント・サーバ・機械学習・数理最適化等幅広くこなす

個人として量子アニーリングコンピュータの応用研究にも従事しIPA 未踏ターゲットにも関わる

受賞歴: システム制御情報学会奨励賞、KDD Cup2015 2nd

著書に「前処理大全」(技術評論社)、「機械学習のための特徴量エンジニアリング」(O'Reilly Japan)など。日本情報システムユーザー協会や日経セミナーなどで講演多数

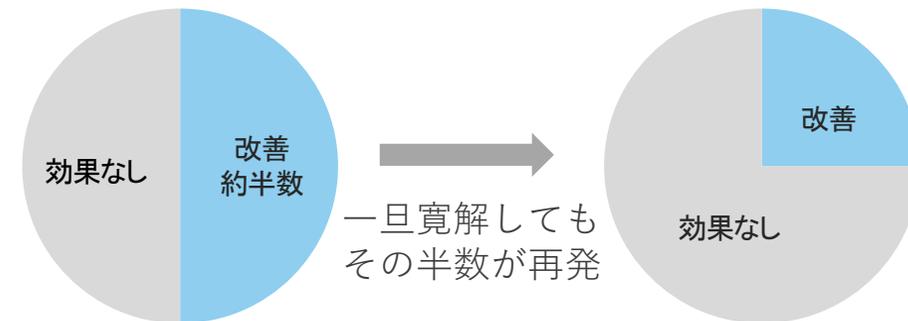
- 複数の疾患のリスク要因である不眠障害に対して、睡眠薬の投与による治療が日本国内では支配的であると理解
- 睡眠薬による治療は問題が多く、減薬や処方期間の短縮が打ち出されているところ、近年は認知行動療法が注目されていると考えている



出所：
Palesh et al., 2010, J Clin Oncol
Palesh et al., 2014, Sleep
Ann Intern Med. 2004 Dec 7;141(11):846-50.
Diabetes Care 2010 Feb; 33(2): 414-420.
Spira et al., 2013, JAMA Neurol
Salo et al., 2012, Sleep Medicine



効能



出所：睡眠薬の適正な使用と休薬のための診療ガイドライン（厚生労働科学研究・障害者対策総合研究事業）

副作用

- 依存性
- 処方への抵抗感



CBT-I*

アクセス

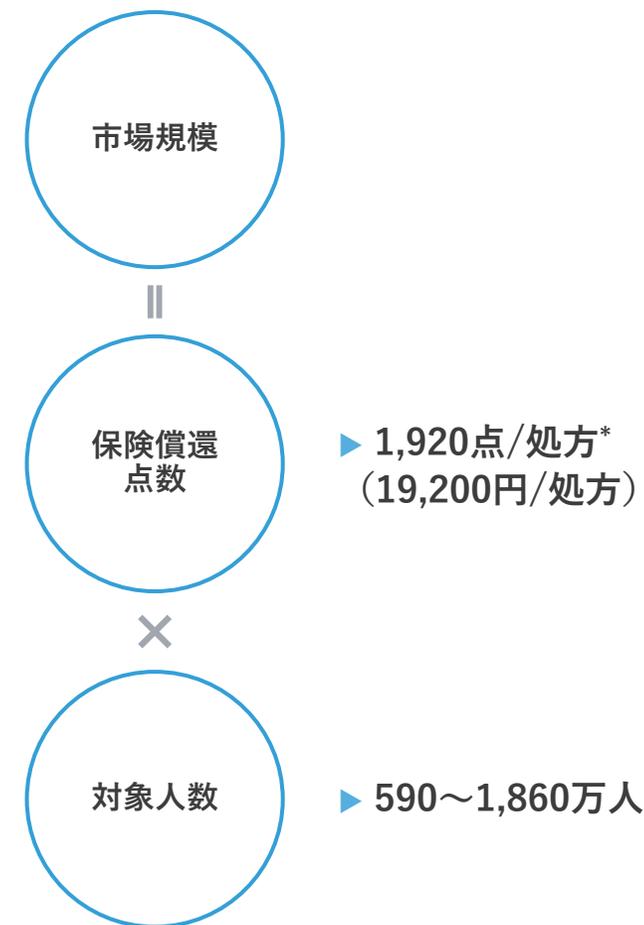
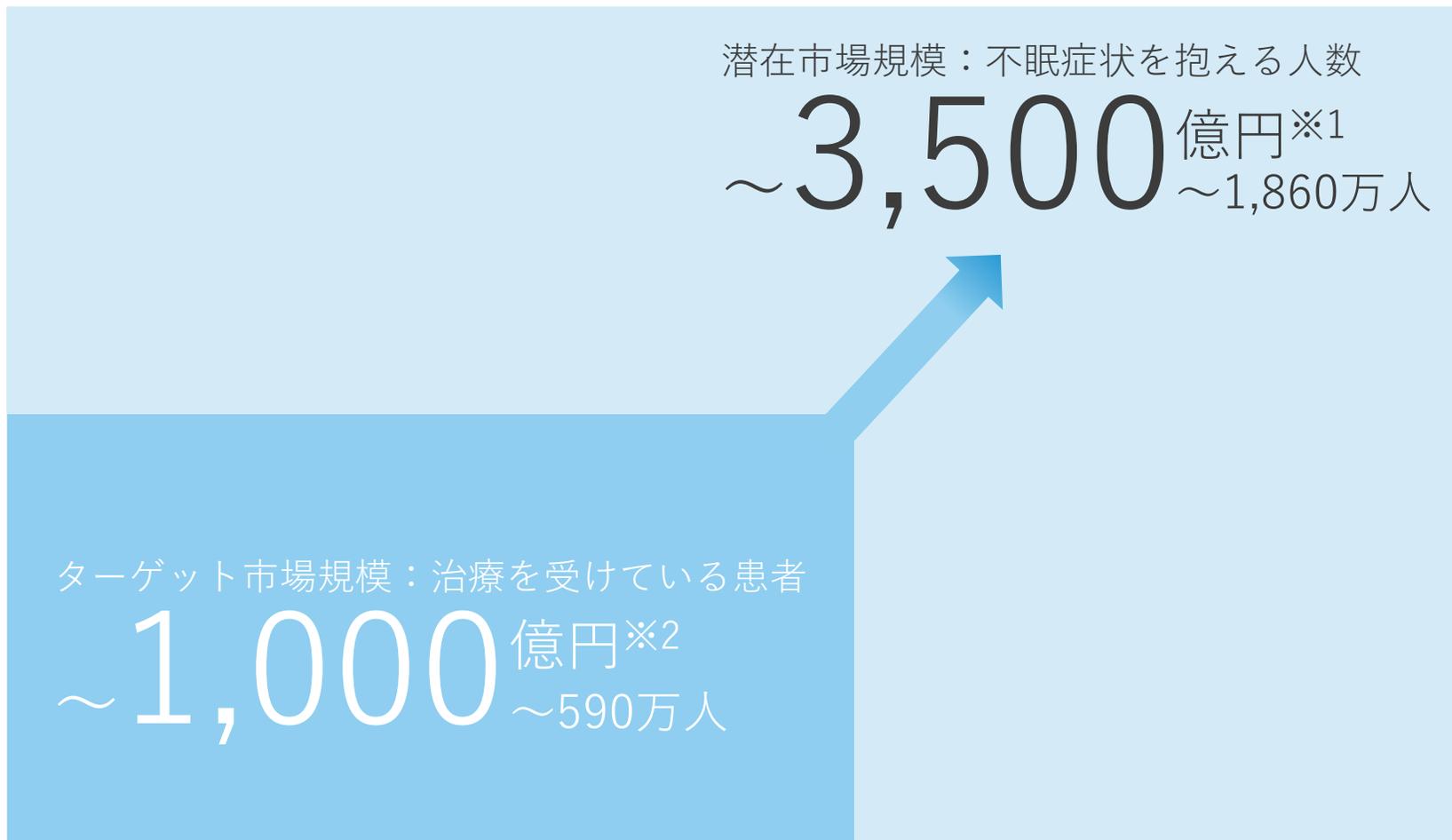
- アメリカでは治療の第一選択
- 日本国内ではCBT-Iを実施できるスタッフが不足

不眠障害は複数疾患のリスク要因

*CBT-I: 睡眠障害を対象とした認知行動療法 (Cognitive Behavioral Therapy for Insomnia)

不眠障害治療用アプリの国内市場規模（推計）

- ターゲット市場は1,000億円、潜在患者まで含めると3,500億円の規模を見込む
(保険償還の対象となっているうつ病に対する対面の認知行動療法の保険点数を参照)



※1：日本の人口約1.25億人×日中の過度な眠気に悩んでいる人の割合14.9%=1,860万人 (Liu X et al. Psychiatry Research, 93・1, 1-11 (2000))

※2：日本の人口約1.25億人×治療層4.7% = 590万人 (「不眠に関する意識と実態調査」MSD製薬 2014年)

注：市場規模（推計）は当社アプリがターゲットとする市場全体の規模を表しており、医療機関や販売提携先に帰属する収益等も含まれています。

* アプリの想定処方期間2ヶ月に対し、対面式の認知行動療法における保険点数480点/回×4回（隔週での実施に相当）を参照し算定

— 不眠障害治療用アプリのSAM (Serviceable Available Market)

- 既存の睡眠薬治療からの切替ニーズと、不眠症自覚症状があるが睡眠薬治療に抵抗がある未治療患者の掘り起こしを狙う
- 当社実施の387名の医師を対象としたアンケートより、SAMは400億円超と試算される

既存治療患者からの切替

未治療患者の掘り起こし

SAM



既存不眠障害
治療患者数※1

推定処方率※2
(当社試算)

想定処方単価※3

590万人 × 17% × 19,200円

潜在患者※4

推定処方率※5
(当社試算)

想定処方単価※3

470万人 × 24% × 19,200円

(参考) 既存不眠症治療薬の2024年売上高(億円)※6

デエビゴ	545
ベルソムラ	240
マイスリー	42

※1：日本の人口約1.25億人×治療層4.7% ≒ 590万人（「不眠に関する意識と実態調査」MSD製薬 2014年）

※2：当社実施の医師アンケート（N=387）より、CBT-Iアプリを支持している医師の割合×CBT-Iアプリの想定処方割合×年代層別のスマートフォン保有率（出所：インテージ「マルチデバイス調査」）に不眠症治療薬を服用している人のうち現在の治療薬に対して不満がある人の割合71%（「不眠に関する意識と実態調査」MSD製薬 2014年）を乗じて試算

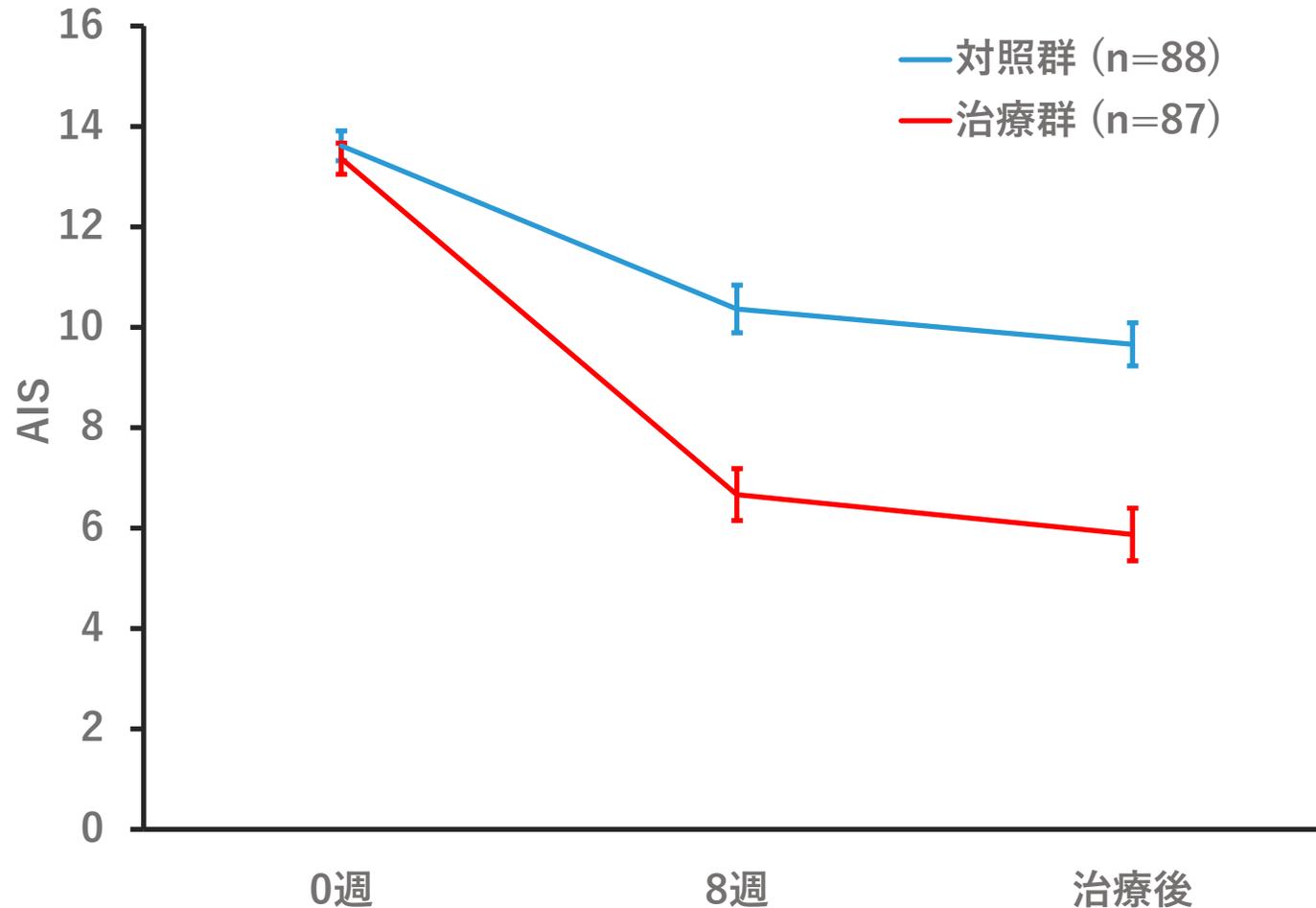
※3：不眠症治療用アプリの想定処方期間2ヶ月に対し、CBT-I治療における保険点数480点/回×4回（保守的に隔週と仮定）を参照し推定

※4：不眠症状を抱えており未治療1,270万人（1,860万人-590万人）に、不眠症疑いあり層のうち「自分は不眠症だと思う」（35.2%）もしくは「どちらともいえない」（21.9%）の合計57.1%を乗じ、さらに不眠症疑いあり層で不眠症治療薬を飲むことは怖いと感じている割合64.4%を乗じて試算（「不眠に関する意識と実態調査」MSD製薬 2014年）

※5：当社実施の医師アンケート（N=387）より、CBT-Iアプリを支持している医師の割合×CBT-Iアプリの想定処方割合×スマートフォン保有率（出所：出所：インテージ「マルチデバイス調査」）より試算

※6：薬事ハンドブック2025、薬価ベース

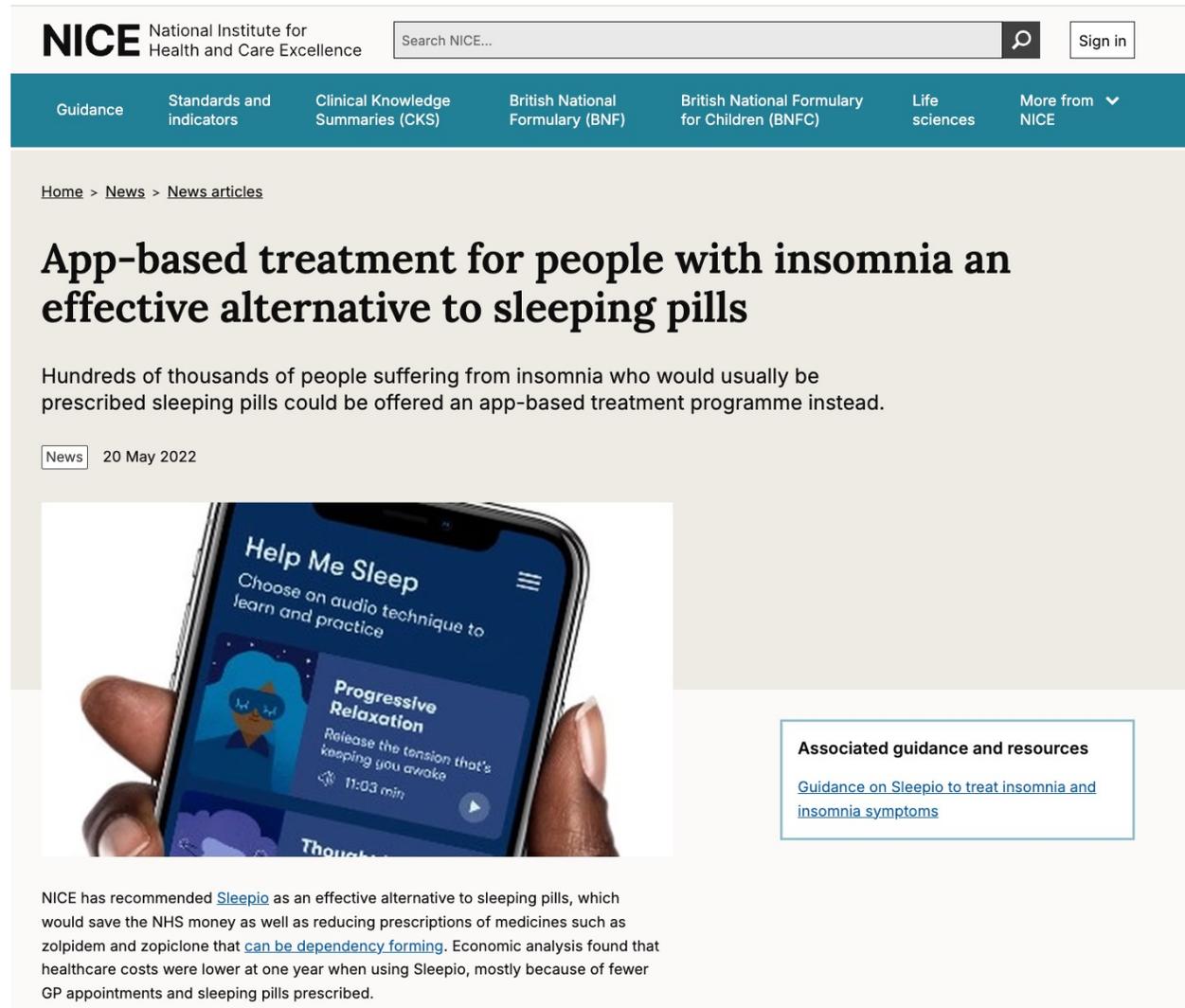
- 日本睡眠学会での主な発表内容
- 詳細についてはSLEEP誌に掲載 (<https://doi.org/10.1093/sleep/zsac270>)



【結果】

- 治療群は対照群に対して、ベースラインに対する8週時のAIS変化量が有意に改善 ($p=0.00000024$)
- 治療後の安全性追跡調査でも、睡眠薬のような不眠症状の増悪（反跳性不眠）なく、治療効果が継続
- 他試験での対面式認知行動療法によるAIS変化量の報告 (Landowski et al., 2012) と、同程度の治療効果

- 英国国立医療技術評価機構（NICE）が、不眠症治療において睡眠薬の代わりに治療用アプリを推奨



The screenshot shows the NICE website interface. At the top, there is a search bar and a 'Sign in' button. Below the navigation menu, the article title is prominently displayed. The main text states that hundreds of thousands of people with insomnia could benefit from an app-based treatment instead of sleeping pills. A date tag indicates the article was published on 20 May 2022. An image shows a smartphone displaying the 'Help Me Sleep' app interface, which offers 'Progressive Relaxation' as a technique. A box on the right side of the article lists 'Associated guidance and resources' with a link to 'Guidance on Sleepio to treat insomnia and insomnia symptoms'. The bottom paragraph of the article notes that NICE has recommended Sleepio as an effective alternative to sleeping pills, which would save the NHS money and reduce prescriptions of medicines like zolpidem and zopiclone that can be dependency forming. Economic analysis found that healthcare costs were lower at one year when using Sleepio, mostly due to fewer GP appointments and sleeping pills prescribed.

<https://www.nice.org.uk/news/articles/App-based-treatment-for-people-with-insomnia-an-effective-alternative-to-sleeping-pills>

- ヨーロッパ睡眠学会が不眠障害治療のガイドラインを改定し、「成人に対する慢性的な不眠障害の治療においては、対面、デジタルのいずれかに関わらず認知行動療法が第一選択として推奨される」とした論文を発表

”Cognitive-behavioural therapy for insomnia is recommended as the first-line treatment for chronic insomnia in adults of any age (including patients with comorbidities), either applied in-person or digitally”

”When cognitive-behavioural therapy for insomnia is not sufficiently effective, a pharmacological intervention can be offered.”



REVIEW ARTICLE |  Open Access |  

The European Insomnia Guideline: An update on the diagnosis and treatment of insomnia 2023

Dieter Riemann , Colin A. Espie, Ellemarije Altena, Erna Sif Arnardottir, Chiara Baglioni, Claudio L. A. Bassetti, Celyne Bastien, Natalija Berzina, Bjørn Bjorvatn ... [See all authors](#) 

First published: 28 November 2023 | <https://doi.org/10.1111/jsr.14035> | Citations: 1

<https://doi.org/10.1111/jsr.14035>

乳がん患者運動療法

ACP : Advance Care Planning

腎臓リハビリ

市場規模

72億円

309億円

660億円

保険償還点数

- ▶ 615点/回
 - 1時間運動療法を行った場合
 - 1単位：205点/20分
 - H007-2 がん患者リハビリテーション料を参照

- ▶ 3,000台湾ドル/時間
(13,500円: 1TWD=4.5JPY)
 - 日本ではACPの保険償還点数が決まっていないため、台湾の事例を参照*

- ▶ 555点/回
 - 1時間運動療法を行った場合
 - 1単位：185点/20分
 - H002 運動器リハビリテーション料 (I) を参照

回数

- ▶ 3回/週 (※1)

- ▶ 6ヶ月間：1時間/回/月 (※2)

- ▶ 8回/月 (※3)
 - 2回/週

対象人数

- ▶ 97,812人**
 - 2019年の乳がん罹患者数

- ▶ 381,505人**
 - 2021年のがんによる死亡者数

- ▶ 149万人***
 - 20歳以上の慢性腎臓病G3b-G4ステージの患者数

* : "Taiwanese put off by costly advance care planning services: Experts", Mar. 6, 2023 (記載されているレンジNT\$2000-NT\$4000の中間値を使用)

** : https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html#a25

*** : CKD診療ガイド2012

※1: 臨床試験における治療プログラムを参照 (<https://tokuteikenshin-hokensidou.jp/news/2019/007960.php>)

※2: 当社推計

※3: 腎臓リハビリテーションガイドラインを参照

注： 市場規模（推計）は当社アプリがターゲットとする市場全体の規模を表しており、医療機関や販売提携先に帰属する収益等も含まれています。

本資料には、当社の現在の見通し、予想、目標、計画などを含む将来に関する記述が含まれています。これらの記述について、当社は、将来に関する見通しであることを示すために、全てではありませんが、多くの場合、「予想」、「目標」、「想定」、「期待」、「意図」、「計画」、「見込み」等の語句およびこれと同様の意味を有する語句を用いています。将来に関する見通しは、本資料の作成時点における入手可能な業界、市場動向または経済情勢等の情報に基づき一定の前提・仮定のもとに作成されたもので、既知または未知のリスク、不確実性が内在しており、今後発生する事象に基づき影響を受ける可能性があります。影響を与える要因としては、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった国内外の経済情勢、当社の関連する業界における事業環境の変化および関係法規制の改正、開発計画・製品化の遅延や今後の販売活動において期待した効果が得られない可能性、第三者による知的財産の侵害等が含まれますが、これらに限られるものではありません。そのため、当社の実際の業績は将来に関する見通しに記載されまたは示唆されるものとは大幅に異なる可能性があります。当社は、これらの将来に関する見通しに記載される予想が正確なものであることを保証するものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行なっており、またこれを保証するものではありません。

当社は、本資料の日付以降において、本資料に記載された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有しておりません。また、これらの情報は、今後予告なく変更されることがあります。従いまして、本資料及び本資料に記載の情報の利用については、他の方法により入手した情報とも照合確認し、利用者のご判断によって行なってくださいますようお願い致します。

本資料は当社事業への理解を深めていただくために作成したものであり、医薬品及び医療機器（開発中の製品を含む）に関する宣伝広告、医学的アドバイスを目的とはしておらず、また、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券の勧誘を構成するものではありません。

本資料の利用は、利用者の責任によるものとし、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。